

令和3年度 第2回若い教師と共に学び合う自主セミナー 実施報告

【実施日時・場所】 令和3年10月16日（土）13:00～17:00 @福島大学附属小学校

参加者16人（小学校10人，大学生3人，教育関係3人）

【テーマ】子どもの姿から授業を振り返る

第1回のセミナーでは、学級の子どもたちの姿を思い浮かべながら、2学期に行う授業を構想してきました。今回は、その時に構想した授業を実践していただき、どのような子どもの姿が見られたのかを、参加者全員でじっくり聴き、授業をつくる上でどんなことを大切にすべきなのかを考えていきました。

【セミナーの様子】

○「第1回構想した授業はこうなりました！」（報告）

第1回のセミナーで構想した授業を実践してくださった先生方の授業をじっくり聴いていきました。実践した先生方が見取った子どもの姿から「うまくいかなかった場面」や「想定外の子どもの姿」について話していただき、そこからもっと詳しく聞きたいことを参加者の先生方が質問していきました。

4人の先生方の報告から次のようなことが話題に上がりました。



- アスファルトの水たまりがどこへ行くのかを教材提示したら、意図したところではないところに子どもの目が向いてしまった。（4年「雨水のゆくえと地面の様子」）
- 蒸発を確かめる実験を子どもと立案しようとしたら、たくさんの発想が生まれてしまい、どうしたらよかったのかな。（4年「雨水のゆくえと地面の様子」）
- 台風の進行について考察をまとめようとする中、子どもの中で納得しているようで、納得していなかった。（5年「天気の変化(台風)」）
- 月の満ち欠けを考えていたら、宇宙からの視点で子どもたちが考え始めてしまったんです。（6年「月と太陽」）

○ 子どもとつくる授業で大切なことってなんだろう（協議）

報告を受け「授業がより良いものになるためには、どのような視点が必要だったのか」について参加者から①授業の前にできること②授業中にできることに分けて、キーワードをあげてもらいました。

キーワードをあげていくと、今回のセミナーでは次のような視点が授業改善をする上で必要だと考えられました。



授業をする前に必要な視点

- 子どもの把握
- 単元づくりやカリキュラムマネジメント
- どのような資質・能力を育成するか
- 教材の価値
- 授業の想定

等

授業中に必要な視点

- 教師の関わり方
- 子どもたちが自然現象をどのように捉えているのかを見取る
- 板書
- 問題解決の流れ

等

今回は特に、授業中に子どもが問題解決をするために発想した実験方法をどの程度許容していくのかという教師の構えの部分について協議していきました。子どもの思いを大切にすると予想を確かめる上で科学的に問題解決することが可能であるのかという点を授業の中で教師は見極めていく必要があるという話ができました。

○ まとめ

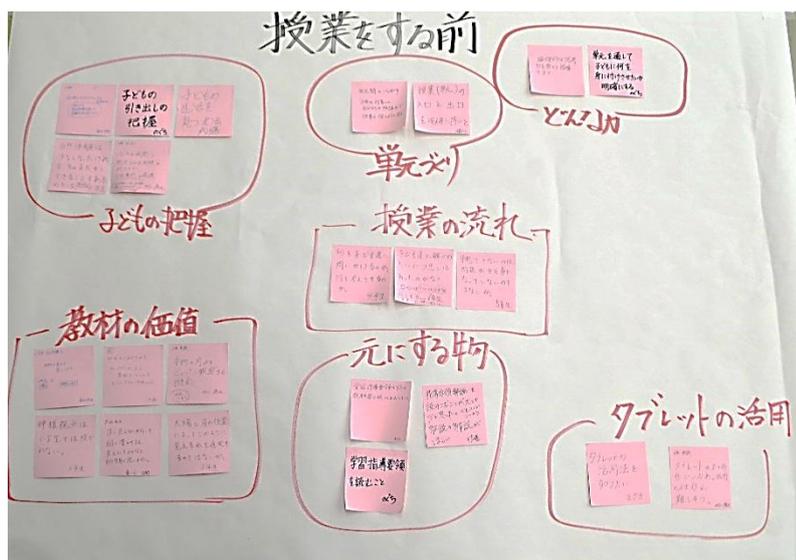
今回、実践してくださった授業に参加した先生方で振り返っていくことで「授業前に教師が準備できることは何か」「授業の中で教師がどのように子どもと関わればよいのか」という視点をもって授業づくりする必要があると思いました。そして何より、多くの先生方で授業を協議することで、我々の子どもを見取るフックを広げることができたと改めて感じました。



今回文科省の鳴川先生にも参加していただきました。要所での学習指導要領に基づいた説明があり、大変勉強になりました。

～ 資料 ～

協議に向けた先生方の授業改善のキーワードです。ぜひご覧いただき、自分の授業を振り返る材にいただければと思います。



授業をする前の視点（一部抜粋）

- 子どもの引き出しや生活の把握
- 今の子どもたちの自然体験は何か
- 何を子どもたちに問いかけるのか考えさせるのか
- 身に付けさせる資質・能力は何か
- 子どもたちにとって問題解決が自分事になっているか
- 教材にどっぷりと関わるができるようになっているか
- 単元間のつながりや系統性

授業中の視点（一部抜粋）

- 子どもにツッコミを入れる入れどころ
- 子どもの意見を広く受け止められる
- イメージの共有の難しさを知ること
- 自然の事象を様々な面から見ようとする教師の構え
- 子どもの考えを方向付けする働きかけ
- 実験を通して何が分かるのかを見通しをもたせる働きかけ
- 根拠を聞き出すことで子どものイメージを可視化や言語化する

